

LGBTなどの性的マイノリティのことを知っていますか？

民間団体の調査^{*1}によるとLGBTの方は人口の5.9%であると推定され、学校40人クラスであれば、1クラスに1～2人はいることになります。

LGBTなどの性的マイノリティについては、正しい知識がなく、また、正しい理解がされていないことで、何気ない言動により、身近で傷ついている人がいるかもしれません。

(※1) 博報堂DYグループが2016年に実施した調査

多様なセクシュアリティ (性) のあり方について次の4つの要素を通じて考えてみましょう。

1 身体の性

身体的な特徴や性染色体、生殖腺などによって客観的に判断される性別です。外性器の違いで判断される場合が多いですが、精巣や卵巣の有無、染色体の組み合わせなど、身体の性の違いは目に見えるものだけではありません。

2 性自認 (心の性)

自分自身が自分の性をどう捉えているかということです。男性 (女性) の身体を持って生まれた人の圧倒的多数が自分のことを男性 (女性) と認識しています。しかし、心の性と身体の性が一致せず自分自身の身体に違和感を持っている人や男性でも女性でもないと感じている人もいます。

3 性的指向 (好きになる性)

恋愛感情が主にどの性別に向いているかということであり、男性を好きか、女性を好きか、男女両方好きか、あるいは誰に対しても恋愛感情を抱かないといったことです。

4 性別表現 (表現する性)

言葉づかいやファッションなどの装いを自分自身がどのように表現したいかということです。男らしさ、女らしさは、時代や文化と共に変化します。性自認と性別表現が一致するとも限りませんし、特定の性的指向を持つ人が特定の性別表現をするとも限りません。

LGBTとは レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字をとって組み合わせた言葉です。

(%は※1の人口規模)

Lesbian

レズビアン 1.70%
女性同性愛者

Gay

ゲイ 1.94%
男性同性愛者

Bisexual

バイセクシュアル 1.74%
両性愛者

Transgender

トランスジェンダー^{※2} 0.47%

身体の性に違和感を持つ人
生まれたときの性別とは違う性別で生きる人、
生きたいと望む人

(※2) FTM:トランスジェンダーのうち、**女性の身体で生まれ、自分は男性だと**感じている人を「FTM (female to male)」と呼んでいます。

MTF:トランスジェンダーのうち、**男性の身体で生まれ、自分は女性だと**感じている人を「MTF (male to female)」と呼んでいます。

LGBTのほかにも、心の性や好きになる性がはっきりしない人、決めなくなったり、わからなかったり、悩んでいる人や自分を男性・女性のいずれかとは認識していない人もいます。最近ではそれらのさまざまな性のあり方について、性的指向と性自認を表すSOGI (Sexual Orientation and Gender Identity)の略であり、読み方は『ソジ』という言葉で用いられることもあります。

性的指向と性自認を混同することなく、適切な認識が求められます。

性分化疾患：身体の性のさまざまな発達 (DSDs：Differences of Sex Development)

生まれつきの身体の状態が大多数の女性・男性の身体とは一部異なる状態。「男でも女でもない・中間の身体」という誤解がありますが、当事者の大多数は自身を切実に「身体の一部が異なるだけの女性・男性」と感じ、性的マイノリティとはみなしておらず、性器という極めて私的な領域に関わるため、不用意に取り上げないなど十分な配慮が必要です。

(詳しくは性分化疾患を持つ子どもと家族のための情報サイト ネクス DSD ジャパン <https://www.nexdsd.com/> 「ネクス DSD」で検索)

性的マイノリティの当事者の思い

レズビアン

「わたしはすっごくステキな彼女がいるんだ」と自慢したいけれど、差別されたり、いじめられるかもしれないと思うと勇気が出なくて、友だちには、「彼氏がいる」で通している。親は同性愛とかにめっちゃめっちゃ偏見を持っているタイプなので、怖くて絶対に言えない。だから、彼女とデートに行く時も、いつもウンについて、それがしんどい。いつか、誰にでも「自分がレズビアンだよ」って言えるようになったらどれだけ楽かな、って思う。

ゲイ

小さい頃からずっと男の子が好きだった。高学年になって、みんなと自分は違うと知って怖くなったし落ちこんだ。それを仲が良かった女友だちに話すと、「これだけ人がいっぱいいるんだもん、そういう人だっているでしょ」と言ってくれた。自分で自分のことを「変な奴」だと思っていたので、「そういう人だっている」という一言にすごく安心した。何年かたって彼女が「実は、いとこがレズビアンなんだ」と教えてくれて、同性愛者って珍しいわけじゃなく当たり前にいると知って、さらに安心した。

日高 庸晴 著

「もっと知りたい!話したい! セクシュアルマイノリティありのままのきみがいい 2 わたしの気持ち、みんなの気持ち」(汐文社)より転載

性的マイノリティの方が困っていること

異性愛者のふりをしなければならない

周りから偏見の目で見られることがある

「ホモ」「オカマ」「レズ」という言葉に傷ついている

カミングアウトしたら言いふらされた

自分が思っている性別のトイレに入ることができない

など